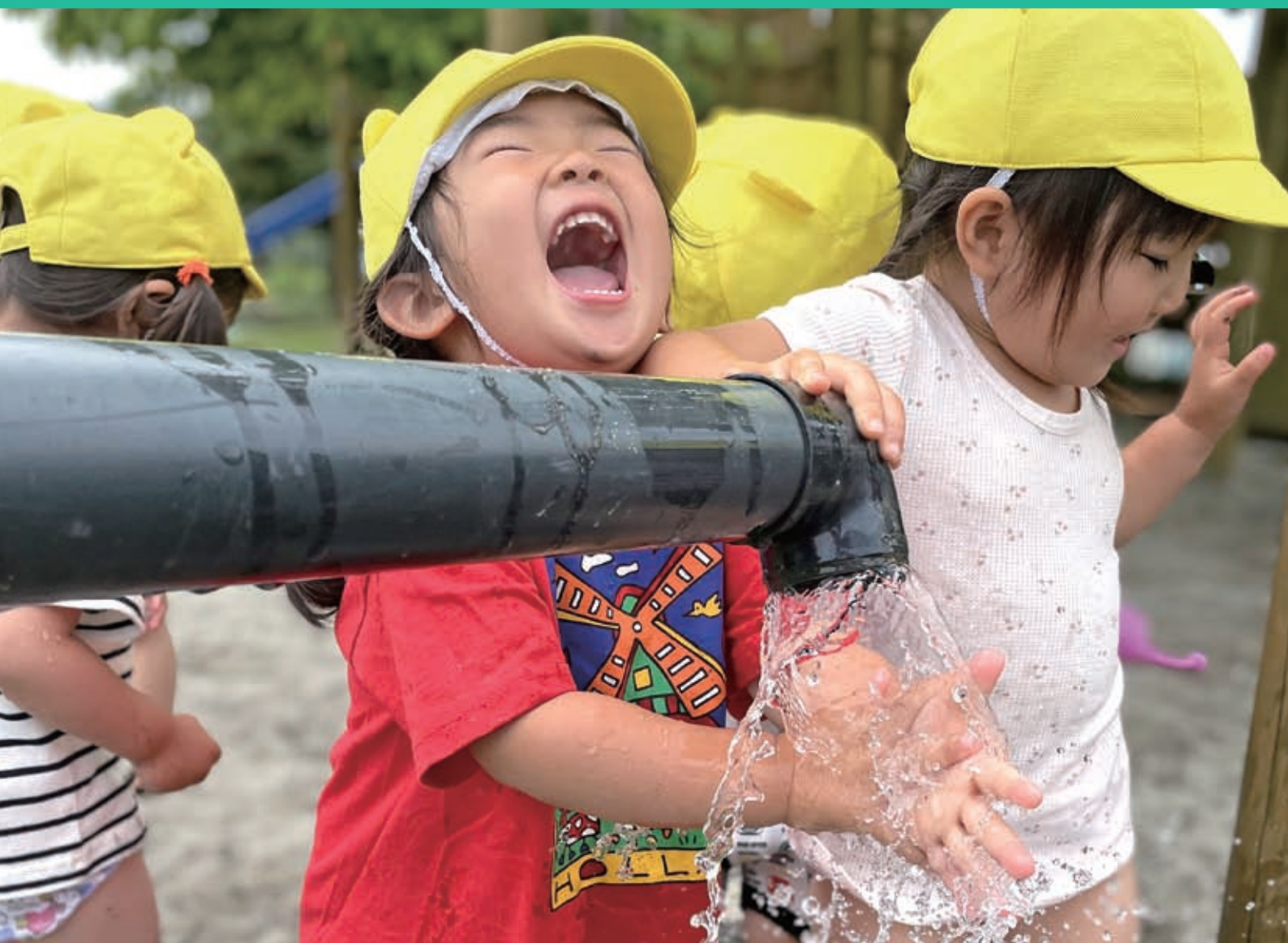


静私ふなだより



水遊び気持ちいい～!!

- 理事長挨拶、新私学振興課長挨拶
- 定時総会
- 特集「子どもと大人の育ちを手伝う仕事(その2)」 香野 毅
- 特集「可能性を引き出すリーダーシップ(その3)」 松原 美里
- コミュニティ(保育の窓)
- もの想い(菊川中央こども園／沼津聖マリア幼稚園)
- 乳幼児期の体力づくりの考え方 磯谷 仁
- ナイスショット&編集後記



NO.198
2023⑦
Summer

「子どもの権利条約」を 周知し幸せな社会に・・

(一社) 静岡県私立幼稚園振興協会
理事長

千葉 一道



世界中に猛威を振るった新型コロナウイルスもようやく小康状態になり、マスクの着用も個人に委ねることになりました。長い間活動を控えていた幼稚園行事も、ようやく日常的な活動ができるようになりました。今年のGWは行動規制がない久しぶりの連休で、全国の行楽地では多くの人で賑わいを見せていました。

これまでの間コロナ禍にご協力頂きました皆様に敬意を表し感謝申し上げます。

令和4年度の出生児数は過去最低の80万人を割り、少子化が急速に進行していることが窺えます。50年後の日本の人口は現在の7割ほどの8700万人にまで減少するデータが発表されました。国はあらゆる手段で少子化対策を講じていますが、出生率を上げるのは難しい状況であります。

県私幼でも少子化による会費収入減の対策として「あり方検討プロジェクト」を立ち上げ、これからの協会運営を改革し、令和6年度から新体制に移行する準備をしているところであります。協会園が永く存続できるためにも会員各位のご協力が必要になります。

こども家庭庁の調査で「不適切な保育」が全国で941件発生したと報告がありました。その内静岡県内で発生した事案が50件ありました。

国連が定めた「子どもの権利条約」には4つの権利があります。

生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利であります。

「子どもの権利条約」は子どもたちと結んだ約束です。この約束を守り、子ども一人一人の健やかな育ちを保証し、子どもをまん中にしてみんなが笑顔を持って生活できる環境作りをしていくことが必要であります。

未来を担う子どもたちと関わることができる幸せと喜びを私立幼稚園やこども園から発信し、子どもと関わることの楽しさを伝えていきましょう。

会員園の皆さんにお願いです。

毎年全日本私立幼稚園連合会の経営実態調査が実施されています。しかしながらこの調査に参加していただく園が全体の半数以下で国に対する公定価格の増額陳情が思うように進みません。現在の公定価格を上積みするためには根拠となる資料が必要になります。公定価格が増額できるようこの調査にご協力頂きますようお願いいたします。

これから子どもを取り巻く環境は大きく変化していきます。全園が参加して支え合っていける県私幼振興協会であることを希望します。

終わりに会員園の益々のご発展と会員園にお勤めの全ての皆様のご健勝をご祈念申し上げご挨拶と致します。

本年度もよろしくお願いいたします。

魅力的で特色ある 幼児教育への期待

静岡県スポーツ・文化観光部
総合教育局私学振興課長

渡邊 宏



今年度、私学振興課長に就任いたしました渡邊宏です。

日頃から、私ども私学振興課の業務をはじめ、本県様の様々な施策について、御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、これまで新型コロナウイルス感染症により様々な活動が制約を受けておりましたが、5月に感染法上の分類が5類感染症に変更され、各私立幼稚園におかれましても、春の遠足や運動会、授業参観等の行事をはじめ、様々な教育活動がコロナ禍前と同様に行われるようになってまいりました。

このような中、県では「富国・有徳の『美しい“ふじのくに”』づくり」を県政運営の基本理念に掲げ、誰もが幸福に生きられる素晴らしい日本の理想郷「ふじのくに」を創り上げるべく、高い志を持って社会に貢献できる自立した「有徳の人」の育成に向けて、地域ぐるみ、社会総がかりでの子育てや教育を推進しております。

特に幼児教育は、普段の遊びや生活の中で、知識、技能、思考力、判断力、表現力等の基礎を培うものであり、子どもたちの学びと資質・能力の向上に大きく寄与するものとして非常に重要であることから、私立幼稚園の自主性や独自性を

生かした魅力ある幼稚園づくりへの支援を通じて、幼児教育の充実と「有徳の人」の基礎づくりに努めているところであります。

一方で、近年自然災害が多発しているほか、送迎バスや遊具施設等における事故が発生しており、園における安全管理の徹底や危機管理の強化が求められております。

引き続き、園児や教職員の安全確保を第一に、施設の点検とメンテナンスの継続的な実施はもとより、危機管理計画やマニュアルの整備とそれらに即した行動を徹底していただきますようお願いいたします。

また、地震対策につきましては園舎の耐震化が重要となりますが、本県の私立幼稚園の耐震化率は令和3年度末で97.1%となっており、未だ耐震化されていない施設があります。耐震整備には資金面をはじめ様々な課題があると思いますが、安全にかつ安心して学べる環境づくりのため、御協力をお願いいたします。

今後とも、職員一同皆様とともに、私立幼稚園の振興、発展に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の第71回定時総会が、6月6日(火) ホテルグランヒルズ静岡において、157人の社員が出席(委任状を含む)し、静岡県スポーツ・文化観光部長 村松毅彦様、同総合教育局長 縣修様、同私学振興課長 渡邊宏様、健康福祉部こども未来課長 鈴木安由美様をお迎えし盛大に開催されました。



総会は、千葉理事長の挨拶から始まりました。理事長は、「昨年度は通園バスでの園児置き去りや保育者による幼児虐待などがあった。幼稚園・こども

園は安全で安心できる施設でなければならず、子どもや保護者の期待を裏切ることがあってはならない。全職員が緊張感を持って職務に臨む必要がある。」「振興協会は、令和6年度開始を目途に協会の制度改革に着手した。全会員の心が一つになることが必要だ。」などと述べました。

続いて、教育振興に多大な功績を残されている方々への表彰が行われました。県の村松部長から私立学校教育振興功労知事表彰が、また千葉理事長から理事長・設置者、園長永年勤続表彰が授与されました。受賞者の方々の功績に対して会場の皆様から盛大な拍手が送られました。受賞者を代表して学校法人早出学園早出幼稚園園長の荒巻太枝子様から謝辞が述べられました。

来賓祝辞では、県の村松部長から「誰もが幸福に生きられる素晴らしい日本の理想郷「ふじのくに」を創り上げるための「有徳の人」づくり、その土台となる



幼児教育の充実に向け、協会と手を携えて私立幼稚園の振興施策を推進していく」とのお言葉を頂きました。

その後、千葉理事長が議長となり議事が進行され、第1号議案「令和4年度事業報告及び財務状況報告」、第2号議案「組織改革等の方針」、第3号議案「定款の一部改正」、第4号議案「運営規則の一部改正」が原案通り可決されました。

このうち、第2号議案「組織改革等の方針」を巡っては、振興協会のあり方検討プロジェクトの提案内容から



議案の方針が変更となった経緯と理由について質問があり、各地区や研修委員会の意見をもとに三役会で検討した結果である旨の説明がされました。今後は組織運営の重要事項に関するものは、三役会や理事会での検討状況を可能な範囲で公開してほしい旨の要望、意見が出されました。

また、報告事項として3社員(4園)の退会が報告されました。

●令和5年度私立学校教育振興功労知事表彰

学校法人早出学園	
早出幼稚園園長	荒巻 太枝子 氏
学校法人沼津後藤学園	
認定こども園こずわ幼稚園園長	後藤 信俊 氏
学校法人相愛学園	
焼津幼稚園園長	相田 早苗 氏

●令和5年度永年勤続表彰(理事長・設置者、園長) (勤続40年以上)

学校法人静岡聖母学園	
蒲原聖母幼稚園園長	川島 弘美 氏

(勤続30年以上)

学校法人島田学園	
認定こども園島田学園付属幼稚園園長	小澤 暁子 氏
学校法人静岡聖母学園	
沼津聖マリア幼稚園園長	鈴木 則子 氏
学校法人静岡豊田学園	
静岡豊田幼稚園園長	宮下 友美恵 氏

学校法人眞蹊樹小林学園理事長	
富士中央幼稚園園長	小林 直樹 氏

学校法人向坂学園	
認定こども園春の木幼稚園園長	向坂 武揚 氏

(勤続20年以上)

学校法人とくのう学園	
黒田幼稚園園長	吉野 けい子 氏
学校法人川口学園理事長	川口 盈明 氏
学校法人春日学園理事長	堀内 國夫 氏

子どもと大人の育ちを手伝う仕事

～子どもの理解と説明を求めて～

その2



香野 毅

1970年、佐賀県生まれ。静岡大学教育学部教授。博士（心理学）。専門は障害児心理学、臨床心理学。九州大学教育学部卒業。同大学院を経て、九州大学発達臨床心理センター主任、2000年より静岡大学教育学部講師、同准教授を経て現職。

大学の教育・研究に加え、幼保こども園の巡回相談、学校の相談や研究助言、研修講師を引き受ける。障害児者の療育訓練会、発達障害児の親の会、静岡特別支援教育勉強会などを催す。NPO法人しずおか福祉の街づくりの理事、心理臨床学会理事、日本リハビリテーション心理学会常任理事など。

「なんで？」は、子どもも大人もよく使う言葉ですね。子どもは好奇心、探求心から大人に尋ねます。「なんで空は青いの？なんで夕方は朱（あか）くなるの？」答える大人は大変ですが、ステキな疑問ですよ。大人は、何につかいますか？片付けをしない我が子に「なんでしないの？」と、問い詰めてしまうこともありますね。

ヒトの行動や振る舞いには「訳」がある、と考えるのは心理学の根本発想です。一方、ヒトのこころは分からない、と考えるのも心理学の出発点です。だから、学問研究の対象になりうるのです。実験をしたり、検査（テスト）を作ったり、観察したりして、解明する努力を積み重ねてきました。子どもを育てる現場では、心理学を活用することがよくあります。それは、子どもの様々な行動の仕組みや意味や背景を理解したいからです。

長年、お付き合いのあるAくん親子。先日、お母さんが「ウチの子どもがテレビを観ていたら、私の好きな曲が流れたときに、私を呼びに来たんです。私が好きなことを分かっていたみたいで、こんなことができるようになるなんて…」とイイ話をしてくれました。心理学的には（自分ではない）他者の心的世界「お母さんがAという曲が好きである」を

理解して、さらに（今ではなく未来の）他者のこころの動き「テレビで流れていることを教えたら喜ぶだろう」をイメージできていると解釈できます。心理学者が好きそうなエピソードです。できること、これからできることを理解するのに心理学的発想は役立ちます。もちろんできないことにも活用できます。

お家のトイレでおしっこができるようになったBくんは、まだ園のトイレでは難しいようです。ここで「なんで」が登場です。外のトイレでは、音や人の気配が気になってしまう。失敗したら？と考えると不安でおしっこが出ない。遊びに夢中で、尿意に気づくのがギリギリ。外ではオムツで過ごしているので、家以外ではここに出すんだな！と思っている。まだまだありそうですが、その理由を考えることが、トイレ自立への手助けにもなります。緊張や不安の感じやすさと理解すれば、それを和らげる方法や安心できる手立てが提供されるでしょう。成功体験がないことが習慣を導いていないとすれば、最初の一回を丁寧に作ることがなされるでしょう。「なんで」と考え、理解をすることで、手立てが当たりやすくなります。こういうのを一人ひとりに合わせた個別の支援といいます。

以前、訪問した幼稚園で鬼ごっこの最中にCちゃんが泣き出しました。みんなで「なんで」を探したところ、逃げている途中で誰が鬼か分からなくなって「みんな鬼だ～」と、怖くなったそうです。鬼には、赤い帽子をかぶってもらうことになりました。Dちゃんは、外遊びに誘うたびにしぶります。他の遊びに固執しているようにも見えます。イヤの理由がまだ言えないDちゃん。時間をかけて分かったことは、眩しいのが苦手だということ。天気の良い日は目が痛いくらいだと訴えてくれました。「なんで」探しは、大人の常識の外にまでおよびます。

子どものことを理解することは、当たりの手立てを見つけてることに加えて、別の作用ももたらします。それは説明できるということです。子どもは成長とともに多くの人、場所、機関と関わっていきます。祖父母、友達、親戚、先生、ご近所さん、園、学校、病院、塾、習い事…。子どもたちは、顔かたちが異なるように、性格や特徴も異なります。好みも行動の仕方も違います。みんな個性的でちょっと面倒くさいです。その人たちに、自分の子どものことを知ってもらうことは、子どもの生きやすさを助けます。その子に関わる人にとっても、恩恵をもたらします。

最近、福祉などの領域では、セルフアドボカシーなる言葉をよく目にするようになりました。日本語で言えば、「自己権利擁護活動」、日常語で言えば「自分に必要なサポートを自分でまわりの人に説明して理解してもらう活動」だそうです。

例えば、難聴の方が「周囲の音が聞こえやすいように補聴器つけています。でも音の方向が分かりにくいから、話しかけるときは正面に回って、私に分かるようにしてほしいです」といった感じです。あるいはマタニティマークをカバンにつけている人は、静かに「妊婦なので配慮よろしく」と伝えます。白杖や車いすも同じような作用を持っています。

そこで、子どもたちにもセルフアドボカシー・スキルを発揮させましょう！自分に必要な支援や配慮を求めさせよう！といきたいのですが、これがなかなか難しい。いや、現実的には子どもでは厳しいでしょう。私たちの文化もこ

れを推奨してきませんでした。ガマンが好き？な国民性です。これができるためには、自分のできること・難しいこと・配慮があればできることを理解して、かつ周囲に配慮を求める内容が社会的に妥当である（これを合理的配慮といいます）と認識して、周囲に適切な言い方で発信していかなくてはなりません。

そこで登場するのが保護者です。それも今どきの保護者です。アドボカシーには「代弁」という意味もあります。子どもに代わって、理解と配慮を求めることになります。となると、ここで求められるのは説明する力です。ちなみに先生も代弁者の役をとることあります。

子どものこと、説明できますか？子どもが求めていること、代弁できますか？これが簡単ではありません。これを手伝うのも、我々カウンセラーの役目のひとつです。カウンセラーは「間をつなぐ仕事」も請け負います。子どもと家族、家族と周囲の人、家庭と学校や園といった関係において、お互いの理解がスムーズかつ豊かになるように手伝います。それは、保護者や先生が子どものことを説明する「ことば」を一緒に作る作業ともいえます。

学校の先生に「書くのが苦手なんです」と説明したEくん親子、小学校2年生です。後日、分かったことは、先生は苦手なんだからいっそう練習させようと量を増やしていました。保護者は、苦手で時間がかかるので書く内容を絞ってほしい＝量を減らしてほしいと期待していました。Eくんは、授業ってしんどいな～と鉛筆をかじっていたそうです。

「先生だから（言わなくても）分かってくれる」は、過ぎた期待です。正確には「先生だから話を聞いてくれる」です。先生たちも「親だから分かってくれている」と思っていないですか。さあ、もう一言、もうちょっと、お互い話をしましょう。私たちも手伝います。



可能性を引き出すリーダーシップ

3

～チームの向かう先へ～



松原 美里

(合同会社ウメハナチャイルドケアコミュニケーションズ、保育コミュニケーション協会 代表)

北海道網走市出身

保育士。横浜女子短期大学卒業後、横浜市の保育園、川崎市の児童養護施設に勤務。認定こども園保育園部施設長を経て、現在は静岡を拠点に全国で活動。

コーチング・心理学・NLP・システム思考等を学び、資格を取得。保護者向けの子育て支援講座、新人・中堅の保育士向けのコミュニケーション研修、管理者向けのマネジメント研修を提供し、「参加者が主役」「笑顔あふれるワーク」が好評を博す。「子どものために大人が輝く背中を見せる」をモットーに、オンラインサロン、園内ファシリテーター・認定講師の育成も行っている。

これまで第一回目では、プレイヤー目線からリーダーシップを発揮する視点への変換について、第二回目では、リーダーシップを発揮していく上での行動やあり方についてご紹介をしてきました。今回はそれを踏まえて、実際にリーダーとしてチームを導いていく中で出てくる頭を悩ませる出来事と、取り組み方についてご紹介していきます。

リーダーとしての葛藤

指導の場面において、メンバーに対して「大切だ」と感じていることを伝えるものの、上手く伝わらずにもどかしい思いをすること、想定とは異なる答えが返ってきてもどかしい思いをすることがあるのではないのでしょうか。もしかするとそれは、受け取り手の経験値が少ないことから、同じ日本語を使っているイメージが広がらず、あなたの伝えたい真意や意味が伝わっていないのかもしれない。

何かを進めていく際に双方向のやり取りに時間が掛かりイライラが蓄積すると、つい「自分でやった方が早い」と仕事を背負い込んで疲弊してしまうことも。短期的には物事が前に進みますが、長期的な目線で見るとメンバー育成の課題が積み残しになり、ストレスが続く状態になります。

リーダーシップを発揮してメンバーの意見をまとめている場面においては、たくさんの意見が出てきて「なるほど」と感じることもあれば、相容れない意見がぶつかり合うことも。そんな時、どちらかを立てるともう片方がへそを曲げてしまうこともあり、どこへ向かっているのかどう折り

合いを付ければ良いのか途方に暮れてしまうこともあるでしょう。不安に駆られたり、力量不足を感じながらも前に踏み出すしかないのが、リーダーの辛いところです。

「女の職場」といわれる現場においては、お互いに気を遣い合いながら日常業務を進めていくものの配慮が足りず、日々の嫌な思いが蓄積してメンバー同士の関係性が気まぐずになってしまうことも。子どものためにはいい空気感を作りたいと思いながらも、正論では人の心は動かずしこりが残るためどう関わればいいのかという難しさもあります。「子どもとのやり取りは良いけれども、一番難しいのは人間関係」というのは人によって現場が成り立つ保育・幼児教育の現場から聞かれる悩みです。

また、難しい保護者への対応など、リーダーとして担うことになるものの、自分でも「これでいいのか」と不安や恐れが出てくることもあるのではないのでしょうか。

このように、さまざまな場面において、リーダーとしてなにが正しいのか、なにが間違っているのか、自分に自信がない中でも決断をしていく勇気が必要になります。

リーダーとしての取り組み

保育・行事・伝わらない・保護者への対応・・・忙しい日常においては「やらなくてはならないこと」に注目がいきがちですが、日々に追われるうちにモチベーションが下がり、目先のトラブルで疲弊が起こることも。これらの状況を踏まえて、メンバーを導くリーダーシップのためには、

まずヴィジョンを掲げることです。

園やチームがどうなったら良いのか、理想の状態（ヴィジョン）を思い描くのがリーダーの役割です。そのため、これまでの視点とは異なる子どもたちを取り巻く社会や情報を広い目で捉えるための学びが必要になります。

その上で、現状を俯瞰する力を持ちましょう。今、園やチームに起きていることを客観的に把握・分析した上で、ヴィジョンに近づくためにはどのような取り組みが必要なのか、出来そうなことや課題について、思考を整理して優先順位を見つけていきましょう。それだけでも、チームとして今取り組むことが明確になり、視界が開ける思いがするでしょう。

とはいえ、自分だけが納得をしていますが、メンバーにはそれは伝わりません。

思い描いた理想の状態へ向けて、メンバーを導くコミュニケーションが必要です。

思い描いた理想の状態をメンバーに共有し、向かう先へワクワクしながら準備を重ねるチームになれるよう、対話を重ねていく中でモチベーションを高めていきましょう。

但し、ただ伝えただけではメンバーには理解することが難しいため、メンバーに分かる言葉で言語化する「相手が受け取りやすくなるための伝える力」が必要です。具体的には、主語を「WE＝私たち」として、このような順番を意識して伝えて行くのです。

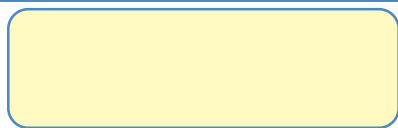
システム思考で課題を整理する ～ロバートフリッツの緊張図の活用～

1. 理想の状態（職員・園内の様子・保育の在り方など）



3. そのための過程

2. 現在の状態（上手くいっていること・感じていること・課題・）



ロバートフリッツの緊張図

1. 図の2に該当する“現在の状態（困っていること・課題と感じていること）”を伝えて、「たしかに…」「困るよね」と、目線を合わせる
2. 図の1に該当する“理想の状態（子どもやみんなにとっ

て良い、理想の状態）”をありありと具体的に言葉で共有し、「それいいな。」「そうならいいな」と期待がふくらむきっかけを作る

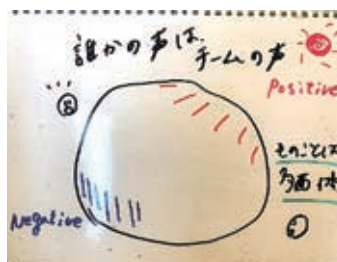
3. 図の3に該当する“そのために取り組んで行きたいこと”について、意見を募る（そのために、〇〇を試してみようと考えている、他にも何かアイデアはありますか？など）ことによって、メンバー全体の共通の課題にする

～といった流れです。そして、伝えた後には「聞いてみて、どうですか？」と相手の受け取り方・感じたことに耳を傾け、同じ方向に向かっていけるよう調整をしていきましょう。

その際、大切なのがメンバー一人ひとりの心に寄り添う「共感力」であり、情熱とともに伝える「表現力」です。はじめからうまく行く人はいないので、どんどん体当たりでチャレンジをし、トライアンドエラーの中で感触を掴んでいきましょう。つい感情的になってしまう場面もありますが、湧き上がってくるままにぶつけ合うだけでは関係性が壊れてしまうため、要注意。一旦冷静になり、感情と意見を分けて伝えることを心掛けましょう。

社会には、いろいろな価値観や意見を持つ人が存在します。園内も同様であり、自分とは違う意見があるとして、一理ある部分もあるのではないのでしょうか。

自分の意見にとらわれず、「意見」として扱うことが大切です。自分自身の視野を広げて成長させてくれる貴重な人として感謝を伝えましょう。様々な意見を取り入れて一緒に対話を重ねながら考えることで、球体思考による気づきが生まれ、チームとしてのより良い答えが導き出されるでしょう。



〈球体思考〉さまざまな角度から見える視点はどれも一理あり、耳を傾けることで本当に大切な本質（真ん中）が見えてくるというもの

そのために、日々のコミュニケーションの中で挨拶や雑談を丁寧に積み重ねる中でお互いを知り合い、尊重し合える関係性を作ることがベースになります。

リーダーとしてのこういった取り組みは、一保育士でいたときには異なる努力を必要とするものになりますが、人間として大きく成長できる土台を作るプロセスでもあります。

そこへ向けた取り組みとしては、育成というプロセスがあるのではないのでしょうか。こちらはまた次回、じっくり取り上げていきたいと思います。

一年目を通して感じたこと

桜ヶ丘幼稚園 日吉 未悠

私が幼稚園教諭として働き始めて一年が経ちました。幼稚園教諭の仕事の楽しさと難しさの感情の積み重ねで、この職のやりがいを感じることができました。

苦手な野菜を一口食べられたときや、鉄棒の前回りが初めて出来たときなどの子どもの成長を見ることができたときに、幼稚園教諭の仕事の楽しさを感じます。一方で、一人ひとりに合った保育を見つけるために、声掛けや関わり方を工夫し、試行錯誤する中で保育の難しさを感じました。

幼稚園教諭の仕事の楽しさを感じる過程には、幼児教育の難しさがあり、乗り越えることでこの仕事のやりがいを感じるのだと実際に子どもと関わる中で気づくことができました。

この一年間、笑顔で挨拶する子や泣きながらも頑張っている子など、登園する自分のクラスの子どもたちを見て、「先生になってよかったな！今日も笑顔で楽しい日を過ごそう！」という気持ちで毎日を笑顔で送ることがで

きました。ときに、どうしたらその子にとって良い関わりになるのか考える日々が続いたこともありましたが、そのようなときには、先輩の先生にアドバイスをいただき、幼児教育の幅を広げていながら、自分の保育のスキル向上に繋げていきました。



園での経験は、子どもたちの成長に大きく繋がっていきます。子どもたちの成長へと繋げられるよう、自分自身の課題を理解し、幼稚園教諭としてのスキルを上げていきたいです。また、大切な幼児期に一緒に過ごすことができるこの環境に感謝することを忘れずに過ごしていこうと思います。

子どもたちが「先生といると楽しいな。また明日も幼稚園に行きたいな。」と楽しい気持ちで幼稚園に通えるように、私自身が幼稚園教諭の仕事を楽しみ、教員としての関わりの目的をもってやりがいを感じながら子どもたちと関わっていききたいです。

「夢に向かって」～目指すは幼稚園の先生～

学校法人島田学園付属幼稚園 山田 凌太

私は小学校の頃から幼稚園の先生になりたいと思いました。その理由は、当時週末になると幼稚園に通っていた従妹の面倒を見ることもあり、その従妹から幼稚園の話聞くことも多く、面倒を見ることで伯母さんたちに褒められたことがきっかけだったと記憶しています。私の小学校の卒業アルバムに「目指すは幼稚園の先生」と書いたほどでした。中学生の時にその夢を強く思うようになったきっかけが保育園での職場体験でした。実際に保育の世界を見て、感じて、体験する中で子どもたちからの笑顔やありがとうの言葉をたくさん感じることができました。この子たちの成長を手助けできる仕事ができたらどんなにすてきだろうと思うようになり、子どもの成長を見ることができ保育の仕事をしたと強く思うようになりました。高校に入り、1年生の頃から進路を保育の学校に定め勉強に励みました。そして高校卒業後、神奈川県にある保育の専門学校に入学して専門分野を学び、たくさんの実習に行き力をつけていきました。島田学園付属幼稚園にも行き、実習をさせていただきました。そこで一人ひとりの園児に寄り添いあそびを展開している先生方の姿、全力で遊んで元気に歌を歌う子どもと過ごして、この園に魅力を感じ保育者として成長していける園で



あり、保育の仕事をしていくなれば付属幼稚園で働きたいと強く思いました。

幼稚園で働き始めてもうすぐ2か月がたちます。実際に働いてみると実習の時よりも子どもの動きを予測して考えながら保育し、子どもの様子や気持ちに合わせて関わるのが大変であることがわかりました。しかし、実習生の時よりも子どもとの関わり方がわかってきて子どもに合わせた関わりができるようになってきました。普段の生活の中で先輩の先生方からたくさん吸収させていただき、私なりに考えながら保育に参加できるようにもなりました。そして子どもたちも私に知らないことをたくさん声にして教えてくれ、そこからあそびにつながることもあり、この仕事を始めて、いままで感じることもやることができなかった子どもの姿を見ることができるようになりました。

まだ分からないことや時に難しく感じることもあります。保育の仕事ができることが本当に嬉しく、とてもやりがいを感じています。子どもの「ありがとう」が最高のプレゼントです。これからも保育を通して子どもの成長を見守るとともに、自分自身が成長していけるよう精いっぱい励んでいきます。

子どもと一緒に成長できる保育者を目指して

杉田幼稚園 渡邊 有沙

自分自身の幼児時代に3年間過ごした幼稚園で、現在は「幼稚園の先生」という立場になって7年目を迎えようとしています。1年目の頃は、自分の思い描いていた先生の姿とはほど遠く、毎日失敗や反省を繰り返していたのを覚えています。担任として、子どもをまとめながら一人ひとりの子どもの姿を捉えることは難しく、日々悩むことも多かったです。先輩方の保育を真似してみたり、自分なりに工夫したりしながら、慌ただしい毎日を過ごしてきました。

また、運動会や生活発表会などの行事では、自分のクラスだけではなく、園全体で連携をはかり、取り組んでいくことが大切だと感じています。日々の保育でも一人で悩まず、周りの先生方に相談したり、アドバイスをいただいたりしながら一緒に働く先生方ともコミュニケーションをとることで、いろいろなやり方があることを学びました。保育者として、これで良いのかと不安ばかりでしたが、少しずつ、自分なりの保育で良いのだと思えるようになりました。

今まで、未就園児から年長児のクラスを一通り受け持っ



てきましたが、それぞれの年齢に合う保育の仕方、声掛けや環境構成も全く違います。何年保育の経験を積んでも、反省や試行錯誤を繰り返す毎日ですが、子どもの笑顔とやりがい私のエネルギーとなっています。

昨年度、年長児の担任としてクラスを受け持ったとき、幼稚園で過ごす3年間で子どもたちがこんなにも大きく成長したことに驚き、保育者や友だちの言動が大きな影響を及ぼし、いろいろな感情や気持ちが芽生え、子どもの心が育っていくことを実感しました。卒園式で、「ありさ先生のクラスで良かった!」「1年間楽しかった!卒園するの寂しいな。」と子どもたちが言ってくれたときは、私も子どもたちも毎日かけがえのない時間を過ごせていたということに、心から嬉しく思いました。それと同時に、幼稚園の先生を続けていて良かったと感じました。

保育者として、子どもの命を守るだけでなく、一人ひとりの成長を見届け、ともに学びながら“子どもと一緒に成長できる保育者”を目指していきたいと思います。

何事も土台が大事

まどか幼稚園 橋ヶ谷 理

バイクが趣味の私は、空いている時間の多くを修理やメンテナンスに使っている。ツーリングには入念な準備が必要であり、小さな部品一つ一つが安全に走るために欠かすことのできない土台となっている。メンテナンスを怠ったために故障し、レッカーされ、新幹線で帰ってきた苦い思い出もある。こうならないために日々のメンテナンスは欠かすことができない大切なことである。

私の仕事の保育も同様である。某インフルエンサーが「保育は誰でもできる」と言って炎上したが、形だけの「できる」と入念な準備と計画によって実施される「できる」は全く別物である。卵焼きくらいしかできない私が、料理人に料理ができると言ったら怒られそうなものであり、「1年目の私の保育」と「先輩教諭の保育」の違いもここにあった。

1年目の私は卵焼きくらいの保育しかできなかった。そして、先輩教諭との保育の違いに悩む毎日であった。当時、先輩教諭との保育の違いは経験の有無で、時間がたてば自分も経験者になり、自然にできるようになると安易に考えていた。もちろんそのようなわけはなく、保育の土台である準備への取り組む姿勢が全く違い、準備不足であった。自分の未熟さを、経験年数が違うから



と言い訳していた自分がとても恥ずかしくなり、変わらなければならぬと強く思った。

仕事に向かう姿勢や取り組みを見直す前に、私自身の生活を見直す必要もあった。趣味のバイクに加え、麻雀、パチンコ、飲み会での暴飲暴食などにより、日々の体調や気分が安定せず、仕事に全力で取り組める土台（生活習慣）が全くできていなかった。今では改善し、早朝のジョギングに読書、朝食後にコーヒーを買って出勤するほどまでに時間と心にゆとりができるようになった。

生活の土台ができて初めて、仕事である保育の土台（準備）に全力で取り組むことができた。日々全力で取り組むことで、仕事の楽しさを感じるようになってきた。1年目の時に気が付かなかったら、今でもだらだらとした生活のまま、時間だけが経った偽経験者になっていたかもしれない。先輩教諭に感謝するとともに、自分も後輩教諭に仕事の土台、生活の土台の大切さを伝えていきたい。また自分自身も現状に満足することなく、そして人生がより良いものになるよう、毎日を全力で過ごしていきたい。

子どもだった頃の自分へ

菊川中央こども園 父母の会会長

新木 優司

我が家には小学1年長女、年中児長男の2人の子ど
もがいます。長女が入園する時からお世話になっている
菊川中央こども園も今年で4年目。2年目より父母
の会の会長を務めさせていただいています。父母会、
PTA、など聞くだけで人が離れていってしまうような
響きです。(笑)

そんな会長職、担い手がいなかったのは勿論ですが
立候補させていただきました。

志望動機は「子どもだった頃の自分へ」。幼保小中高
生の時、なんとか式や運動会などの挨拶の時間、苦い
思い出はありませんか？

炎天下のグラウンド、空気が淀む体育館の中。「なぜ大
人達は 主役の僕らを置き去りにして 難しい長話を
するのだろう」

そう思い「いつかあそこに立って、最速の挨拶をか
ましてやる」と考えました。

最低限の礼儀を持って、できる限り大人達が使うよ
うな難しい言葉ではない単純な言葉で。そして、心を
震わすようなメッセージを込めて。

それを実現することが、子どもだった頃の自分へ、

という志望動機です。

世間一般のそれとは異なるかもしれませんが、故に
園の子ども達や先生方とは友好関係を築くことができ
ています。(笑)

昨今、PTAの在り方や父母の会の廃止などのニュー
スを目にすることが多くなりました。

私は賛成派です。押し付け合い、親同士の確執を生
み負担ばかりで夕飯の愚痴のネタになるような組織で
あるならば、そんなもの無くしてしまえ！と思ってい
ます。

しかし、本来のあるべき姿は「教育現場と家庭の架
け橋」。

より良い環境作りや情報の共有など、本質的な部分は
守っていかなければいけないと思うのです。コロナ禍を
経て、ここ数年で取り巻く環境は大きく変化しました。

新たな形で、良いものは残し、必要の無いものは刷新。
今はそれができるチャンスの時だと思っています。
こんな会だったら続けても良いよね！こんな会だつた
らやってみようかな！

そんな風に思えるような形を作っていきたいと思っ
ています。

いかに子どもに寄り添
えるか、それは大人に
なってどこかに置き忘れ
てきてしまった「子ども
の気持ち」を思い出すこ
とではないでしょうか。



園と共に成長した娘

沼津聖マリア幼稚園 母の会会長

峯尾 春香

我が家には、とても元気で好奇心旺盛な年長の娘が
います。2歳3ヶ月のときから、沼津聖マリア幼稚園
に大変お世話になっており、先生方は第2の母のよう
に優しく、時に厳しく、包み込むような愛で子供達に
接してくれています。そんな先生方の影響もあり、の
びのび素直に育ちました。

2月に開催されます作品展では、びっくりするよう
な壮大で素敵な世界を作り上げられ、アートに力を入
れているのだなと毎年のように感心させられます。娘
も、自慢の作品展を、祖父母や近所の方にも宣伝して
います！個々の作品に個性を尊重してくれており、1
年間でスキルも表現力も、目を見張るほど伸びていま
す。そのおかげもあり、年長から本人の希望で、ア
ートスクールに通うようになりました。作品を作る事に
胸を躍らせ、キラキラしています。

娘が生まれてから、我が家では「自立」をテーマに
子育てをしており、自分で考え行動するという園長先

生のお考えに共感しております。娘が話し始め意思を
伝えられるようになったくらいから、あまり子供扱い
しないで意思を尊重し、できない時は説明をし、沢山
話すようにしてきました。その影響からか、自分の意
思や意見を持つ子に育ち、興味のある事を追求するよ
うになりました。最近、私が悩んでいる時など、「自
分を信じれば大丈夫だよ！ママならやれるよ！」など
と言ってくれて、相手の気持ちに立つことも覚えまし
た。人と支え合えることも自立にとって重要な要素だ
と思います。今後も自分で考え自分でやり切った達成
感や充実感、喜びをどんどん増やしてもらいたいです。
そして、先生方や保護者の方、娘のお友達など皆様へ、
いつも親子で感謝の気持ちを忘れずにいたいと思いま
す。

残り1年、
幼稚園生活最
後の年となり
ましたが、娘
と夫と共に、
大いに楽しん
でまいりたい
と思います。



乳幼児期の体力づくりの考え方

～保育生活の中で基礎体力づくり～

保育生活の中で基礎体力づくり

生活習慣の中に体力づくりを取り入れると、どんなに優れた
体育の先生よりも子どもの体力を伸ばすことが出来ます。

体力づくりは一朝一夕で出来るものではありません。習慣化させることで少しずつ育まれる
ものです。そこで、園生活の中に運動を取り入れる工夫をしてみましょう。

例えば、登園してきた子から、上から吊り下げられたボールを叩くとか、自由あそびが終わっ
たら鉄棒にぶら下がってからケンケンでお部屋に入るなどです。他にも、朝の集まりで、歌に
合わせてジャンプをしてみたり、掃除時間を設けて、タカバイ（膝をつかない4つ足歩き）の
要領で雑巾がけをしてみるのも良いでしょう。今あげた4つの習慣の中だけでも、逆上がり、
開脚跳び、かけっこ、縄跳び、ボール投げなどの運動につながる基礎が入っています。それぞ
れの運動のポイントを知っておけばより効率的に行うことが出来ます。保育者の負担軽減にも
なります。毎日の生活の中で積み上げて育てる力は、どんなに優れた体育指導者よりも子ども
達の基礎体力づくりに大きな効果をもたらすことでしょ。

全身の筋肉の指揮を執るリズム感

全身の筋肉は、リズム感によってお互いが上手く協力し合うことができる。

リズムを使う運動遊びは縄跳びとボールつきですね、と言うのをよく聞きますが、実は大概
の運動はリズムが不可欠となっています。

例えば、ボール投げの動作をあげますと、一見、ボールを掴んだ手と腕を、振り回してボー
ルを投げているように思えますが、実は、体全体の重心移動や、足のバネ、腰のひねり、手首
のスナップ等様々な体の各部位の動きが複雑に重なってボールを遠方に飛ばす力を生んでいま
す。これらの複雑な動きを上手く協力しあえるように指揮を執っているのがリズム感覚です。
ボール投げに限らず、ほぼすべての運動はリズムカルに行うことでより上手く出来るよう
になっていきます。普段から意識してリズムを遊びの中に取り入れていきたいものです。

【年齢別縄跳びにつながるあそび】

（0歳児）ポンポン子守歌



（1歳児）リズム体揺らし



（2歳児）リズムダンス



（3歳児）振り棒跳び



（4歳児）1～3回跳び



（5歳児）3回跳び～10回跳び



まずは1つから

些細なことでも、いつもの生活パターンを変えるのは優しいことではありません。しかし、1
週間ほど、上記の運動習慣を意識して取り入れてみますと、意外とすんなりと子ども達は受け入
れてくれます。あとは時々ポイントがずれていないかチェックをすれば基礎体力がグングンつい
ていきます。まずは1つの習慣から始めてみてはいかがでしょうか。

【登園時の運動（例）】



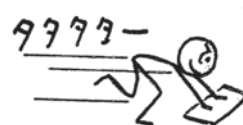
【入室時の運動（例）】



【朝の集まりでの運動（例）】



【掃除での運動（例）】



磯谷 仁（通称スッパマン先生）

【有限会社さのいい羊達 代表取締役】
幼稚園教諭を経て有限会社さのいい羊達
（幼児体育指導）設立
元浜松大学准教授、元常葉大学准教授
各社保育誌に執筆連載
全国各地の研修会にて体育実践指導を
おこなっています



よーいドン!誰かがいちばん早いかな?!



じゃがいもほり



アールで水遊び



てっぺんまでのぼれるよ。



どうぞめしあがれ



カメラでパチリ!



雨降りさんぽ



ねーねー!この花何だろう?



デカパン競争楽しいな!



のびのび描いちゃおう。



ちょうちんはどこだ?



編集後記

2023年5月8日新型コロナウイルス感染症法上の類型が5類へと移行になりました。これからの生活はどうだろうかという不安も抱えつつ再スタートとなります。

また、こども家庭庁が発足、同時にこども基本法も施行されました。今まで届きにくかった子ども本来の声(思い)が社会に届き実現されること、こどもがよりよい生活により将来に希望をもって成長していくことをのぞみます。

今まで沢山の我慢と大変さを皆で乗り越えてきました。今後は、こども園や幼稚園の生活も、マスクが取れお互いの笑顔、辛い時も支えあい笑顔になる生活、食事の場面が熟食から賑やかな団欒の場になることにより、大人も子どもも幸せになる社会に向けて、再び頑張っていきたいと思います。子どもたちのために。

静岡サレジオ幼稚園 河原崎 靖子